カラーとオブジェクトで
空間を視覚的にゾーニングする

上野御徒町桜十字クリニック

UENODKACHIMACHI SAKURAJYUJI CLINIC, Tokyo
Designer Naohiro Nakamura & Associates

東京都台東区上野3丁目21-5 BINO御徒町 5階
設計／中村尚弘建築設計事務所　中村尚弘
協力／照明計画　遠藤照明　石井造太郎　省熱設備　EW　機械設備　IS設計
　　X構設計　既設エンジニアリング
施工／黄土工
撮影／千葉正人

左／待合スペース。壁面のグラフィックや仕上げ材のカラーによって、空間を視覚的にゾーニングしている　右頁上／天井を壁面とすることで空間全体にリズム感を生み出している　右頁下／直線的な施設の建物と対照的な円弧を採り入れた待合のデスク

空間に映像的な体験を創出

「恵比寿桜十字クリニック」（2019年1月号）と同じクライアントによる「上野御徒町桜十字クリニック」は、御徒町駅・上野広小路駅至近のテナントビルに入るクリニックである。外来診療を行うための適度な清潔感を持ちつつも健康診断実施施設としての新鮮なイメージとして、ポジティブな印象が強調された空間が求められた。

立地の特性から幅広い年齢層や客層を対象として認識し、デザイン自体が視覚的に優位な空間とすることを意図した。2フロア（階段移動）に跨る与件から、巡回型で待合スペースが分散されるシークエンシャルな平面構成は避けている。強調された天井面の分割、カラーの連色、壁の吹き抜けなどによりコントラストを与え、視覚的なゾーニングと機能的なゾーニングをリンクさせ、空間を顕在化させることで受診者に聞く知覚されるサインとしている。その要素を家具、サイン、ディテールにも反映し、個の存在感を強めながら、ただそれ自体に強いテーマを持たせぬよう、連なる脈絡の中に総体としての施設イメージがあるように設計した。空間の印象にブレを持たせ、動的なイメージを意識して、テナントとしての総体境界の中に、物語的な奥行きを持たせることを目指している。

施設を訪れてから着替えや検査へと流れていく一連の検査行為を、時間をまとった体験として捉え、検査の間の1〜2時間に、もっと空間やオブジェクト（その施設にいる間の情報）が映像的に体験できれば、ロケーションや与件に負けない強度のあるインテリアとなるのではと考えている。（中村尚弘）

上、下左／モノトーンを基調とした空間に鮮やかなグリッドやアイコンとなるような家具を配することで旅行感を演出　下右／受付は清潔感と共に落ち着いた上質感を演出する素材や照明計画

『上野御徒町聖十字クリニック』data

工事種別：内装のみ　全面改装
床面積：687㎡／4階343.5㎡　5階343.5㎡
工期：2019年9月2日～11月29日
施工協力：朝倉ITインフラ／アイネット

診療内容

開院：2019年12月2日
診療受付時間：午前8時30分～正午、午後1時30分～午後5時
電話：(03)5812-4456
経営者：医療法人東京聖十字
主な診療内容：人間ドック、健康診断、内科、消化器内科

主な仕上げ材料

床：二重床＋台無下地樹脂タイル貼り（ダイナワン）　リノリウム貼り（フォルボ）　タイルカーペット貼り（川島織物セルコン、張り）
壁：LGS組み下地PB下地塗り左官仕上げ（ジュッセル／フッコー）　シルバー塗装（モアレ／カラーワークス）
天井：LGS組み下地AEP　アルミ複合板多機能素材パネル貼り（アルポリック／三菱ケミカルインプラテック）　無垢ボード＋クロス貼り
家具：イス（ブントディー／アンドリューワールド）
什器：ST角パイプフレーム組み枠を付け塗装＋SUS.PL　ST.PL　クリアミラー　フラッシュパネル　カラーアクリル
照明器具：ダウンライト、スポットライト（遠藤照明、モデュレックス、フロス）

5F PLAN

4F PLAN 1:300